

教師の役割

教育センター 指導主事
齊藤 玲子 先生

この夏、松本市内において、小澤征爾氏に捧げる音楽フェスティバルが開催されたという記事を多く目にしました。今年2月、世界的指揮者として活躍された小澤征爾氏が亡くなったことは記憶に新しいところです。そのフェスティバルでは、故人を追悼するのはもちろんのこと、その偉大な指揮者が残した音楽、功績を、若い世代の音楽家や音楽を愛する人たちによって、今後も引き継いでいってほしいという願いが主催者にあったといえます。

生前、小澤氏は、恩師である斎藤秀雄氏の指導について、こんなことを語っていました。「斎藤秀雄先生は、僕たちにしっかりと基礎を入れ、枠組みをつくってくれた」。サイトウ・キネン・オーケストラで、小澤氏がブラームスを指揮したとき、それを実感したといえます。

『基礎を入れる』『枠組みをつくる』とは、音楽科の授業に置き換えた場合、何を意味するのでしょうか。私たちは、音楽家を育てているわけではないので、小澤氏の言わんとすることとは違うかもしれませんが、音楽科の授業における基礎とは、リズム、拍、速度といった『音楽を形づくっている要素』（以下、諸要素）を感じ取る力や感性を育むことだと考えます。なんとなく歌ったり、なんとなく演奏したりして、それなりに満足感が得られてしまうのが、音楽科の授業のよいところでもあり、弱点でもあります。しかし、なんとなくのままでは、基礎の定着にならず、その後の学びの応用が利きません。つまり、学んだことが次へ生かされないということになります。

では、学んだことが生かされるようにするにはどうしたらよいのでしょうか。そこに、教師の役割があると私は思います。子どもの「なんとなく」を、諸要素が意識できるように、具体的に言葉で伝えるということだと思います。これは、価値付けるという言葉にも置き換えることができるかもしれません。音や音楽は目に見えないため、ここに教師の重要な役割があるのだと思います。そして、友達や考えや表現を共有することで、知識や技能を得ていけるようになり、基礎が育まれていくのだと思います。それは、枠組みをつくる（学び合える環境を整える）といえるのかもしれません。

「令和の日本型学校教育」では、教職員に、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力が求められています。子どもの学びを深めるために、今後も教師の役割を考えていきたいと思えます。

令和6年度 愛知県小中学校音楽教育研究大会（名古屋大会）

【研究演奏】 名古屋市立猪子石中学校 吹奏楽部

「We are X!～無限の可能性を信じて～」をモットーに、50名の部員一人ひとりの個性が輝くマーチング演奏が披露されました。オリンピックのテーマ曲によるファンファーレを演奏しながらの入場から始まりました。舞台を最大限に活用したフォーメーションの数々、客席を活用したダンスや演奏、パート毎の歌唱と演奏の組み合わせ等、迫力と躍動感あふれる演奏でした。特に、中学校3年生の部員たちで作り上げた演奏では、丁寧な楽曲分析が感じられるとともに、曲想に合った振り付けも相乗効果を奏し、3年間の集大成となる圧巻の姿でした。

【研究発表】

1 「主体的に音楽活動に取り組む児童の育成」 名古屋市立大坪小学校 鈴木 彩香先生

『自己調整学習』『自由進度学習』を音楽の授業に取り入れることを目指して、授業研究に取り組みました。「マイプランカード」と「マイタイム」という二つの手立てを用いて、児童が自分の課題や学習状況に合わせて学習を進めることができるように工夫された実践でした。

この実践を通して、児童が学習を進める際にどのような教材を用い、どのように支援をし、どのような学習環境を整えることが必要なのかを具体化することができました。目の前の児童の実態を丁寧に把握しながら実践を行ってきたことで、主体的に音楽に向き合おうとする児童の姿が見られました。

2 「自らの思いや意図に合う表現を探求する児童の育成」 名古屋市立中根小学校 相羽 美里先生

「音楽の仕組みを学び、音楽の諸要素の働きを感じ取る力を身に付け、それらがどのように関わっているのかを考える経験を積むことが、思いや意図に合う表現を探求することにつながる」という考えのもと、授業研究を進められました。「見通す」ための「関わりミッケ!タイム」、「試す・伝え合う」ための「いい音(ね)!タイム」、「振り返る」ための「こんな工夫できた音(ね)!タイム」の三つの手立てを基に行われた実践でした。タブレットを用いた音楽づくり、楽器を用いた即興演奏などを通して、友達とつくった音楽を聴き合い、学び合いました。学習活動を通して、見通しをもって考えたり、順序立てて考えたりする児童の姿が多く見られました。

【講演会】「これからの音楽科の授業づくりに求められるもの」～育成を目指す資質・能力を視点とした題材構想のあり方～
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 河合 紳和氏

冒頭、河合氏は、これからの音楽の授業に求められる形として、「子どもが家で音楽の授業について話すとき『今日の授業は、浜辺の歌を歌ったよ』と、教材名だけに留まるのではなく、『今日の授業は、歌詞のもつリズムの抑揚を生かして歌ったよ』と話せるように、教材で学習した音楽の諸要素が記憶に残る授業づくりを目指してほしい」と話されました。

そして、現行の学習指導要領の再確認として、すべての教科で共通して、育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」そして「学びに向かう力、人間性等」の「三つの柱」で整理されました。音楽科の大きな変更点として、「音楽表現」に関する目標と「鑑賞」に関する目標を一体的に示し、新たに「知識」に関する目標が明示されていることをご教示いただきました。このことから、授業を通して、「三つの柱」で示された資質・能力をそれぞれ別々に育成するのではなく、相互に関連させながら育成すること、そしてバランスよく育成することが求められているということが分かりました。

また、「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じたり、その関わりについて考えたりすることが、知識の習得につながり、育成したい資質・能力の一つになる。例えば、『夏の思い出』の中にあるフェルマータはどの程度のばすのが適切なのか、に焦点を当て、部分的に繰り返し味わって聴いたり演奏してみたりすることで、子どもたちが音楽的な見方・考え方を働かせながら活動するとよい。」と授業展開の具体例を紹介くださいました。学びの過程の中で、言葉によるコミュニケーションにより、音楽表現に対する思いや意図を伝え合うこと、結果として音によるコミュニケーションが充実するように結び付けていくことが大切だと改めて感じました。

音楽科の授業は、楽曲から授業を構想する「教材を学ぶ」授業になりがちですが、育成を目指す資質・能力から授業を構想する「教材を通して学ぶ」という授業構想への転換が必要だと強く感じました。身に付けた資質能力が他の音楽との関わりの中でも発揮できるようにすることを常に心掛けて指導していきたいと思えた講演会でした。

8月7日(水)
名東文化小劇場

各研究部の取り組み

授業研究部の取り組み

授業研究部では、「授業のスキルアップを目指したい！」をテーマに、よりよい授業について考えたり、情報交換をしたりしながら研究を進めています。

第1回の部会では、楽しく知識を身に付けるための常時活動や、歌唱の技能を高める練習方法について、実際に活動を体験しながら考えました。常時活動では、リズムや音価を視覚的に分かりやすくする教具の工夫や、音楽を形づくっている要素を聴き取る工夫などが紹介されました。歌唱活動では、様々な発声練習の方法や、「サンタルチア」を使い、高音を美しく歌うためのテクニックなどが紹介されました。参加者からは、「合唱の指導方法に悩んでいたのが、とても勉強になった」「具体的な方法を学ぶことができ、明日からやってみよう」と感想をいただきました。

第2回の部会では、テノール歌手の塩谷幸大先生を講師にお迎えし、楽しく身に付く発声の練習や、いつもの授業に生かせる合唱指導について、実践を交えながら、楽しく分かりやすく教えていただきました。参加者からは、「自分の声の変化を実感した」「体の使い方を少し変えるだけで、声の出方がすごく変わったので、明日から早速やってみようと思う」と感想をいただきました。



今後も、授業のスキルアップを目指し、研究に取り組んでいきます。

教育研究部の取り組み

教育研究部では、月に1度「Music Day！」を開催し、授業で手応えのあった実践を報告し合ったり、指導上の悩みを相談し合い、アドバイスを聞いて、自分に合った手立てを探ったりしています。子どもたちの「もっと学びたい」に寄り添うために、音楽科の学びの在り方を追求しています。



第1回の部会では、豊国中学校長の二階千晶先生をお迎えし、「授業実践のまとめ方」についてご講演をいただきました。「音楽科の授業でどのような子どもを育てたいのか」「目の前の子どもたちのよいところ、課題となるところは何か」などを明確にして現状を把握することが大切であることや、実践の進め方についての具体例を教えていただきながら、研究論文の書き方について理解を深めました。

第2回の部会では、1学期の授業実践の振り返りを行いました。実際に使用した学習プリントの優れた点を紹介したり、様々な授業のアイデアを共有したりしました。また、限られた授業数の中でより充実した授業を行うにはどうしたらよいかという課題について、「効果的なICTの活用や学習プリントの工夫」「目の前の子どもの実態に合わせた手立てを探る」といった考えを出し合い、2学期実践に向けた活発な意見交流を行いました。

今後も参加者の先生方の思いに寄り添いながら、みなさんと共に指導方法を検討し、音楽科で育てたい子どもの姿が達成できるよう、研究を続けていきたいと思っております。

生産・文化部活動指導者研修会

8月26日(月)
イーブルなごやホール

「合唱指揮のトライ」

～合唱指揮者 本山秀毅先生をお迎えして～

令和6年8月26日(月)に、イーブルなごやホールにて開催しました。当日は、合唱指揮者の本山秀毅先生を講師にお招きし、70名を超える参加がありました。

研修は、「言葉のもつリズムを大切に歌う」というキーワードで進められました。そして、そこから派生する発声練習や、歌詞の捉え・解釈、言葉のイントネーションに焦点を当てたアナリーゼなど、多様なアプローチが先生から提示され、受講者にとっては正に“目からウロコ”の新たな発見の連続となりました。また、「大切なもの」「心の瞳」という、学校現場でよく歌われる楽曲を教材としたことも、受講者にとっての分かりやすさにつながったようでした。

受講された先生方からは、「合唱指導に苦手意識があったが、指導の際に心がけることが分かりやすく、とても参考になった」「本山先生の指揮で歌っていると導かれるように声が出た。上達した気がする」「楽しく学んで大切だと思った」との声が多く聞かれました。

台風の進路が定まらない中の実施で、当初予定していた、生徒たちによるモデル合唱での研修から、受講者が実際に歌いながらの研修となりましたが、実感を伴いながら、頭と体で理解することができ、爽り多き、満足度の高い研修会となりました。



冬季研修会 案内

日時:令和7年 2月15日(土) 10:30～

場所:ルプラ王山

* 内容につきましては派遣依頼とともにお知らせいたします。

令和6年度 教育研究派遣員(音楽)

富士見台小学校 川瀬 理乃 先生

御器所小学校 森 朱莉 先生

成章小学校 吉兼 未紗 先生



Q&A 音楽科指導員 笠寺小 徳田幸子先生に 聞いてみました



子どもたちに委ねる授業って、どうやるの?
～歌唱編～

「泳ぎ方を知らない子どもに、がんばって泳いでみよう、と言っても・・・?」という例えのように、こうしたらよくなる、よくなりそうだ、ということを知らずにただただ歌い続けるとどうなるのでしょうか?

私は、日々の授業において、感じ取ったり、表現するための基礎的な技能を身に付けたりするなど、土台作りが大切になると考えます。

例えば、歌声づくりに関わる土台には、よい姿勢をしよう、身体の力を抜こう、よい表情をつくろう、よい声をつくろう、ハーモニーをつくろう、曲想をつくろうなどがあげられます。

まずは教え、習得させ、より自分たちに合ったものにしていく、という流れが理想です。例えば、「よい声をつくろう」では、下のような内容が一例としてあげられます。

- ・発声練習、スーッと息を吐き出し、流す。
- ・上半身を前に倒し、手を横脇腹の後ろに当て、息を吸ったときに膨らませる。
- ・楽しい発声ドリル「犬のおなか」の後半(Haでスタッカート)部分を歌い、前、斜め上、遠くへ声を飛ばす。
- ・S・K・T・Yの子音をはっきりさせる。
- ・ストロートレーニングでのどの奥を開ける。

高学年や中学生は、授業の導入で一斉で行う日もあれば、バディや同パート、異パート同士で取り組む日があってもよいと考えます。

では、低学年では・・・?とてもできない、と思われがちですが、「音程を正しく歌うためには」「声を合わせるためには」「きれいな声で歌うためには」「少しずつ歌声を大きくするには」「姿勢よく歌うためには」等の視点を子どもたちに投げ掛けることで、子どもたちは区別したり、比較、判断したりしながら、意識していけるようになると思います。子どもたちの考えを元に教師が練習動画を作成し、個人や同じ目的をもったグループで視聴しながら活動に取り組むことも有効な手立ての一つです。委ねられる子どもたちが道に迷わないように段階的に指導していけるとよいでしょう。

こえあわせマスタートレーニングカード
どうが「こえあわせ」をみて やってみよう

- いきつぎを あわせて うたうことができた。
- はっきりした ことばで うたうことができた。
- ゆっくりした はやさで こえを あわせて うたうことができた。
- もとの はやさでも こえを あわせて うたうことができた。



トレーニングカードを参考に、動画を観ながらトレーニングに取り組む様子

次号は 第81号 3月11日(火) 発行予定です。

内容に関するお問い合わせは、
広報部 瀬古小 安部まで
【Email abe0825@nagoya-c.ed.jp】

名音楽のHPができました♪
二次元コードでアクセスできます

